

## 神奈川からがんをなくす会(ACクラブ)

### 総 括

昨年度の新入会員は3名で男性1名、女性2名である。夫々の検診項目内訳は男性では消化器+肺で女性では消化器、子宮、乳房の組合せが双方ともに全体のなかで最も多い組合せとなっている。したがって表1のように男性136名のうち111名が消化器、肺、女性116名のうち消化器と前述の婦人科系の検診内容である。希望する検診の組合せでは総数252名中、消化器、肺が115名、次いで77名の消化器、子宮、乳房、第3位が肺単独は26名、さらに消化器、肺、子宮、乳房と続くがこれはいずれも女性のみであるにしても肺単独が男性は23名であることをみると女性の肺に対する関心は喫煙などの他の要因に関係なく高いものと推定できる。

本年度はいずれの項目についてもがんと診断されたものはなかった。例年繰返して述べることであるが検診の絶対数が少ないとはいえ、肺がん検診の精検率は100%であるのは徹底した個人検診であるからに他ならない。

### 消化器がん検診

がん検診としては胃X線検査、腹部超音波検査、便潜血反応であり、夫々、胃、食道、肝臓、胆嚢、膵、腎のがんに対して、また便潜血反応は大腸がんに対する一次検査の役割をもつ。

本年度の消化器検診受診者は220名で男性113名、女性107名である。このうち胃X線検査を受診したのは男性78名、女性75名で精検受診者のなかから胃ポリープが男性8名、女性15名、胃潰瘍7名、十二指腸潰瘍6名(内訳は表1、2、3)である。超音波検査では表4の如く昨年度と同数の213名で男性109名、女性104名であった(表4)。

便潜血反応による大腸がん検診は202名の受診者に要精検者は7名でこのうち大腸ポリープ3名が他医療機関により発見されているが、がん発見はなかった(表5)。

### 肺がん検診

総受診者数231名(表1は検診項目の内訳であるので総人数は異なる)で胸部単純X線撮影が基本であるが平成8年からCTによる検診を併用したので二つのグループに分けられる。やはり単純X-Pの年2回検診が主流で98名であるが年一回のみのCTを付加するのは133名とCT検診への傾向が多くなりつつある。経年受診でありすでに存在していた所見については精検または経年受診としての経過観察が完了していると考えてよいので精検実施数としては少なくCTも2例である(表6)。

本年度は肺がんは2例でいずれもCTによる発見であり腫瘍径1cm以下でありStage Iで手術治療を完了している。CT検診については年一回としてい

るが(胸部単純X-Pは年二回)曝射線量を考慮して隔年検診を考える必要があるかもしれない。

喀痰細胞診については検査・判定ともに特記すべきことはなかった。

### 乳がん検診

乳がん検診は平成17年度より担当者が変わり、検診方法も視触診に毎年マンモグラフィ(以下MMG)3方向併用より、現代の標準より更に精度を上げ、年齢に関係なく、隔年MMG2方向(MLO、CC)とその間の年には超音波(以下US)を挟む方法を原則とするように変更した。毎年3方向はX線被曝量が多い割に有効性は高いとは思われないしMMG高濃度者には不適であるので、精度が急速に進歩し、エラストグラフィやドプラー等も有効なUSを隔年に挟む方法が両者の欠点を互いに補い合い、より合理的と考えたためである。無論年齢、MMG撮影結果を考慮し適宜変更している。

MMGは担当者が読影し、読影有資格者によりダブルチェックされ、USは担当者自身が行っている。

受診者は97名と毎年ほぼ同じで、殆んどがリピーターなので発見乳がんはない。年齢層が高く、公的乳がん検診や、クーポン券、更に企業等で一般の精度の高い検診を受ける機会が多くなっているため、ACクラブは乳がんに対しては限られた階層へのサービスと思われる。

### 子宮がん検診

平成22年度のACクラブの女性受診者数は116名であり、その中で子宮頸がん検診受診者は85名(73.3%)、子宮体がん検診受診者は73名(62.9%)であった。子宮体がん検診を単独で受診する方はおらず、すべて子宮頸がん検診との併用で受診されることから、ACクラブの女性会員は一般の施設検診者と異なり、高率に子宮体がん検診を希望していることが推察される。年齢的に、ACクラブの女性会員のほうが、一般の施設検診者より高齢の方が多くその理由の一つと思われる。

平成22年度の検診者は、子宮頸がん検診、体がん検診とも、結果はすべて異常なしであり、要再検、要精検と判定された方は見られなかった。

平成22年度より、子宮頸がんに対するHPVテスト(ヒトパピローマウイルステスト; Hybrid capture II法)が導入され、希望で検査が受けられるようになった。実際には35人にHPVテストが施行され、2人が陽性であった。陽性者に対しては、二次検診として精密検査(コルポスコピー、組織診断)が施行されている。

関係の集計表は111頁に掲載